

『二中 校長通信』

No1 R3. 4. 8(木)

目指す生徒像 『○思いやりのある生徒 ○心身を鍛える生徒 ○自主的に学ぶ生徒』

□令和3年度のスタートに向けて！

今年度2年目になりました、校長の山本晃市です。今年一年どうぞよろしくお願いいたします。
令和3年度は、163名の1年生を迎え、坂口分校を含めて、全校生徒468名でスタートすることになりました。昨年度よりも10名増加しております。(生徒数は4月7日現在)

今年も、新型コロナウイルス感染症対策として、入学式については例年よりも規模を縮小して実施しました。また、今後の学校行事や育友会の活動についても、昨年度同様中止または規模の縮小が余儀なくされることも予想されます。その都度ご連絡しますが、何卒ご理解いただき、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

さて、今年度も「▼自主性に富み、創造性豊かな生徒を育てる ▼責任を重んじ、社会性、実践力のある生徒を育てる ▼心豊かで、気力に満ちた生徒を育てる」を学校教育目標とします。今年度は、この学校教育目標を受けて新たに、目指す生徒像として、「●思いやりのある生徒 ●心身を鍛える生徒 ●自主的に学ぶ生徒」の育成を目指していきます。

子どもたちの元気なあいさつと、生き生きとした活動に包まれながら、教職員が一丸となって、通うのが楽しい、魅力ある学校づくりに全力で取り組んでいきたいと考えています。保護者の皆様におかれましては、いつでも学校に足を運んでいただき、お子様の様子をご覧いただきたいと思っております。なお、各学年の担任等については、学年だよりでご確認ください。

最後になりましたが、今年度もご支援、ご協力のほど、重ねてよろしくお願いいたします。

□令和2年度卒業証書授与式での校長「はなむけの言葉」より

令和2年3月12日に行われた、本校の卒業証書授与式での校長「はなむけの言葉」の一部を掲載しました。校長として、年間を通して命の大切さを訴え続けたことを、卒業式でも卒業生に対するメッセージとして伝えました。ご一読いただけたらと思います。

(前略)

さて、卒業する皆さんに、はなむけの言葉として今から10年前の宮城県気仙沼市にある「はしかみ中学校」の卒業式で述べられた卒業生の答辞を紹介したいと思います。

皆さんも知っていると思いますが、東日本大震災が発生してから昨日がちょうど10年目でした。

その中学校の卒業式は、今日と同じ3月12日に行われるはずでしたが、大震災により延期されました。その時の答辞です。一部省略してありますが、よく聞いて下さい。

『今日は、未曾有の大震災の傷も癒えないさなか、私たちのために卒業式を挙げて頂き有難うございます。

ちょうど10日前の3月12日。春を思わせる暖かな日でした。私たちは、そのキラキラ光る日差しの中を、希望に胸を膨らませ、通いなれたこの学舎を、57名揃って巣立つはずでした。

前日の11日。一足早く渡された思い出の詰まった卒業アルバムを開き、10数時間後の卒業式に思いをはせた友もいたことでしょう。「東日本大震災」と名付けられる天変地異が、この後すぐに起こるとも知らずに、、、。

自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切な物を容赦なく全て奪っていきました。

天が与えた試練というには、むご過ぎるものでした。辛くて悔しくて、悲しくてたまりません。

時計の針は今も地震発生時の14時46分を指したままです。

生かされた者として、顔を上げ常に思いやりの心を持ち、強く正しく、たくましく生きて行かなければなりません。命の重さ、尊さを知るには大き過ぎる代償でした。

しかし苦境にあっても「天を恨まず」運命に耐え、助け合って生きていくことがこれからの私達の使命です。どこにいても、何をしようとも、この地で仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。』

このように、卒業生代表が、悲しみをこらえ、涙ながらに読み上げると、会場にいた生徒をはじめ、保護者や教職員、会場に避難していた地域の方々など、全員が涙したそうです。

今日の晴れやかな式典には、ふさわしい話ではなかったかも知れません。しかし、いつも私が皆さんにお願いをしている、自分の命を大切にすること、これを絶対に忘れて欲しくないということ、今私たちが置かれているこの危機的な状況を踏まえ、命の尊さを改めて考えて欲しいという思いを込めて、あえて紹介しました。

(後略)

